

行事案内

調査成果発表会・公開セミナー・調査成果展示会

内容：成果発表会はかながわ考古学財団が前年度に実施した発掘調査の成果を発表します。公開セミナーは当財団が調査を実施した小田原市に所在する近世の早川石丁場群をテーマにする公開講座です。江戸城の石垣に使われた石材を切り出した遺跡を詳しく探っていきます。調査成果展示会は当財団が前年度に調査を実施した全遺跡の解説と代表的な出土品や遺跡写真の展示などを行います。

日時：成果発表会、公開セミナー 11月2日(日) 10:00～16:40
(第I部成果発表会、第II部公開セミナー)

調査成果展示会 10月31日(金)～11月3日(月・祝) 9:00～17:00

場所：かながわ労働プラザ JR「石川町駅」下車徒歩4分

費用：無料(入場自由・申し込み不要)

入門講座 ようこそ考古学

平成20年度 第4回テーマ 絵図が語る江戸の町と村 - 連続講座「住まい」② -

日時：11月7日(金) 19:00～20:30(受付は18:30から)

場所：かながわ県民センター 301会議室(横浜駅西口徒歩5分)

講師：澁谷正信(かながわ考古学財団)

定員：90名(応募者が定員を超えた場合は先着順になります)

費用：無料

申し込み方法：往復はがき又はメールに行事名、氏名、住所、電話番号を明記して、かながわ考古学財団野庭出土品整理室へお申し込み下さい。(締め切り11月4日(火)必着)

発掘調査作業見学会

内容：遺跡の発掘調査作業と跡堀遺跡の調査成果の見学会

日時：10月18日(土) 午前の部 10:00～、午後の部 14:00～(荒天時は翌日の同時刻)

場所：海老名市跡堀遺跡 JR相模線「門沢橋」駅下車徒歩15分

問い合わせ：046-238-6414(調査事務所)、080-1344-3081(現場携帯電話)

申し込み不要

覗いてみよう! 発掘調査が終わったら-報告書への道のり-

内容：遺物の復元・実測などの報告書作成作業の見学と拓本体験など

日時：11月29日(土) 午前の部 10:00～12:00、午後の部 13:00～15:00

場所：かながわ考古学財団 野庭出土品整理室 横浜市港南区野庭町1660

京浜急行線「上大岡」駅・市営地下鉄「上大岡・上永谷」駅・JR線「港南台・洋光台」駅より市営バス「すずかけ通」バス停下車徒歩3分

申し込み方法：官製はがき・メールに氏名・連絡先を明記して、又は電話にて、かながわ考古学財団野庭出土品整理室までお申し込み下さい。(11月28日(金)必着)。※当日は上履きをご持参下さい。

伊勢原市 西富岡・向畑遺見学会

日時：11月15日(土) 午前の部 10:00～、午後の部 14:00～(荒天時は翌日の同時刻)

場所：伊勢原市西富岡・向畑遺跡(伊勢原市No.160遺跡)

小田急小田原線「伊勢原」駅より神奈川中央交通バス「専修大学入り口」バス停下車徒歩1分

内容：古墳時代～平安時代の集落跡

問い合わせ：046-396-1544(調査事務所電話)

申し込み不要

発掘帖バックナンバーはホームページ (<http://www.kaf.or.jp>) からダウンロードできます。



お申し込み
お問い合わせ

(財) かながわ考古学財団 野庭出土品整理室
〒234-0056 横浜市港南区野庭町1660 E-mail: fukyu@kaf.or.jp
TEL: 045-842-9888 (平日 8:30～17:15) FAX: 045-842-9904

考古学財団発掘帖

2008
3号

かながわ考古学財団情報誌 通巻6号

平成20年9月29日発行 年4回発行



相模原市 当麻遺跡 第1地点 (たいまいせき だいいちちてん)

本遺跡は、JR相模線原当麻駅から西方約1km、相模川から北西に400mほど離れた、陽原面と呼ばれる河成段丘上に位置します。調査は一般国道468号(さがみ縦貫道路)建設事業に伴い実施しています。

本遺跡からは、旧石器時代から近世まで幅広い時代にわたって遺構が発見されていますが、中心は奈良・平安時代となります。これまでの成果として、奈良・平安時代では21軒の竪穴住居跡、15棟の掘立柱建物跡などの遺構や大量の土器(土師器、須恵器)や刀子や鉄鏃などの鉄製品が見つっています。また縄文時代では土壇墓が2基見つっています。1基は土器が伏せた状態で埋められており、もう1基には携帯型のナイフと言われている石匙が4点まとまって埋められていました。想像ですが、この墓には土器作りの名人や石器作りの名人が埋葬されていたのかもしれない。

目次

- 発掘現場・出土品整理インフォメーション ● 行事案内
- 相模原市: 津久井城跡(山頂部) 調査成果発表会・公開セミナー・調査成果展示会、入門講座よう
- 横浜市: 上行寺裏遺跡
- イベントレポート ● こそ考古学、発掘調査作業見学会、覗いてみよう! 発掘調査が
- 考古学ミニコラム ● 終わったら-報告書への道のり-、伊勢原市西富岡・向畑遺跡



(財) かながわ考古学財団

〒232-0033 横浜市港南区中村町3-191-1
考古学財団 ☎ 045-252-8689 FAX 045-261-8162 URL <http://www.kaf.or.jp>

発掘現場・出土品整理 インフォメーション

ぼくは川尻中村遺跡(相模原市)のはちまき土偶はっちです。発掘調査や出土品整理中の遺跡の紹介をします



津久井城跡(山頂部)(つくいじょうあとさんちょうぶ)

(所在地)	相模原市	(時代)	中世	(調査期間)	2008年4月16日~5月31日
-------	------	------	----	--------	------------------

本遺跡は、相模川西岸にある城山という山全体を利用した、中世戦国時代の後北条氏の山城です。JR橋本駅の西約7kmに位置しています。神奈川県立津久井湖城山公園の整備事業に伴い調査を行いました。

平時には麓付近で生活し戦の時に登り備える城で、今回は山城の山頂主体部である「本城曲輪群」を調査しました。曲輪とは土塁(土を盛り上げてつくった土手)や堀で区画された平場のことで、土塁に囲まれた中心部である「本城曲輪」とその周りを帯状に囲む「米曲輪」、西側の「土蔵曲輪」、東側の「土蔵曲輪」などから構成されます。

曲輪から曲輪への出入り口から石を敷いた道や道の側溝と思われる石を組んだ水路等が見つかったほか、「土蔵曲輪」では、長方形の石列と角礫や砂利を使いしっかりした造成を行った跡が見つかり、建物が存在した可能性が高いと思われます。

中世 本城曲輪へ入る石敷きの道(2008年5月)



上行寺裏遺跡(じょうぎょうじうらいせき)

(所在地)	横浜市	(時代)	中世、近世	(調査期間)	2008年4月17日~6月17日
-------	-----	------	-------	--------	------------------

本遺跡は、京浜急行金沢八景駅の西側にある丘陵一帯に所在する遺跡です。調査は横浜治水事務所による急傾斜地崩壊対策工事に伴って断続的に実施しており、これまでの調査で中世のお寺に関連した施設といわれるやぐらを中心とした遺構が発見されています。

2008年度には、六浦二丁目5番地やぐら群、六浦二丁目3番地やぐら、瀬戸14番地やぐら群の3地点の調査を行いました。六浦二丁目5番地やぐら群では、やぐらと地下式坑が発見されました。また、近現代まで物置やゴミ捨場といった様々な用途で、後世の人々にも利用されていたことが明らかになりました。六浦二丁目3番地やぐらでは、やぐらと石塔が発見され、石塔はやぐらの前面にあったという嶺松寺歴代住職のお墓と判明しました。瀬戸14番地やぐら群では、やぐらと横井戸の調査を行いました。やぐらには後世に掘り込まれた副室が2基あることがわかりました。横井戸は近世頃に造られたと思われます

中世 やぐら(2008年5月)



イベントレポート 体験考古学

体験考古学は、神奈川県より委託を受けた普及活用事業です。遺跡の発掘調査や、その後に行う出土品整理作業がどのような目的・方法で行われているのかを中学生・高校生に体験してもらいました。期間は2日間で、7月28・29日に中学生、7月30・31日に中学生・高校生がそれぞれ参加しています。

体験の工程は、第一日目に当麻遺跡第1地点で古代の竪穴住居跡の体験発掘や測量体験、遺物洗浄体験をしました。第二日目は、野庭出土品整理室で出土品整理作業の見学をした後に拓本体験、石器(黒曜石製石鏃)製作体験をしています。

暑い中での発掘はとても大変でしたが、遺物が出た時は嬉しさが伝わってきました。石器製作体験では、石鏃を装着した弓矢で段ボールの的を射った時の迫力に皆で驚きました。鹿角を使った石鏃の製作も皆さんうまくできました。参加した中学生・高校生の皆さんお疲れ様でした。また参加してくださいね。



発掘調査



石器作り

考古学ミニコラム 第5回

考古学のホットな話題や資料の見方を取り上げたり、講座等で多く寄せられた質問に答えます。

謎の多彩小壺ー古代の鉛釉陶器をめぐるー

日本の窯業史の中で、奈良時代には中国で発達した素焼きの土器に釉薬を施す、いわゆる陶器製作の技術が大陸から伝来します。唐三彩を模倣して作られた奈良三彩は日本最古の施釉陶器で、酸化鉛を配合した釉薬を用いて、白釉(石英)・緑釉(緑青)・黄褐釉(赤土)の三色に彩られた焼物です。土師器や須恵器しか知られていなかった当時、煌びやかで奇抜な色彩を発する奈良三彩は、時の権力者達によって愛好されていました。その証拠に、出土したものの多くは当時の都(=平城京周辺)に偏っていますが、神奈川県内でもこれまでに数例確認されています。

写真の奈良三彩は、昭和初年に現在の川崎市登戸付近で出土したと伝えられる、高さ16.5cm程の有蓋小壺です。良好な遺存状況で、重要文化財に指定されています。

こうした三彩の小壺は、和歌山県名古曾廃寺などで石櫃に収まって出土した事例が知られており、火葬蔵骨器の容器として使用されていました。本事例も、底裏に厚く水銀朱が塗られていることから蔵骨器の類と思われるのですが、石櫃も無ければ、出土した詳しい場所や状況もわからず、今でも謎のベールに包まれています。多摩川中流域で奈良三彩を入手し得た階層の人とは、一体どのような人物であったのでしょうか？



伝登戸出土の奈良三彩有蓋壺

(出典 矢部良明 2000『日本の美術 No.408 唐三彩と奈良三彩』至文堂より)